

希少ツガザクラ守りたい

新居浜市南部の赤石山系にある銅山峰（約1300㍎）に自生する国の天然記念物、高山植物ツガザクラ群落で、淡紅色のかれんな花が見頃を迎えた。16日は、地元の高校生ら約50人が恒例の保全活動に汗を流した。

新居浜・銅山峰 淡紅色かれんな花見頃



ツガザクラの状況を確認する生徒

高校生ら保護柵など確認

ツガザクラはツツジ科の常緑小低木で、5月中旬から下旬にかけて5㍎ほどの釣り鐘形の花を咲かせる。銅山峰は国内に分布する自生地の南限帯に所在。国内他地域とは異なる遺伝的特性を持つ固有種で、東予東部特有の強風といった特殊な環境で育つ。

16日は2016年から行っている新居浜南高の生徒27人に加え、新居浜東高の12人も同行。県総合科学博物館の川又明徳専門学芸員（植物分類学）が講師を務め、1997年から本格的に保全活動をはじめた登山愛好家らでつくる「憧山会」のメンバーも参加した。生徒らは15カ所の定点



小さな花を咲かせたツガザクラ

観測地点でツガザクラの生育状況を確認し撮影。群落の踏み付けや盗掘を防ぐロープ柵をチェック、修繕した。

群落までの登山道には、別子銅山最初の坑道「歓喜坑」など多くの産業遺産が点在。場所ごとに新居浜南高魅Can部ユネスコ部員が説明した。（月岡岳）

「希少ツガザクラを守りたい 高校生ら保護柵などを確認」

2026年5月17日付愛媛新聞（掲載許可番号：d20260518-02）